（別　紙）

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況（太枠囲み部分）」に記入をお願いします。（セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。）

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、ﾎｰﾑ内の介護や地域との活動などを、会議時には確認しながら事業を実施している。	生活信条という名目で廊下食堂などに掲示して時々読み上げている。職員も熟知しており介護計画作成のときは理念を基本においている。月々の家族や地域へのお便りには最上段に必ず入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の作業に出たり、道のごみ拾い、高齢者の寄り合いに出かける等のことをしている。	周囲の田んぼの堰上げなどには職員が参加するが利用者も田んぼのふちまで出かけていく。集落のごみ拾い、生きがいサロンにも参加している。小学校の行事参加も頻繁にあり、小学生がりんごなどを持ってきて交流していく。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サポーター講座への協力。 地域へのお便りの発行。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の日常生活のお世話や介護について意見をもらったり、地域との活動事業にも一緒に取り組んでいる。	2ヶ月に1階の割合で開催され、地域のボランティアや、小学校長も委員になっている。委員はお楽しみ広場の実行委員も兼ね企画から加わってもらっている。委員の人たちは日ごろから施設を訪れ利用者とも顔なじみで状況がよく分かっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退居者の相談や、運営推進会議で助言などを通して協力をお願いしている。	入退居に関して地域包括が細かく関ってくれている。特に退居者の今後については包括が家族などにアドバイスをしてくれているなど必要に応じて訪問してくれるので緻密な関係が保たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やマニュアルにて、拘束への理解をしている。	玄関の施錠を一切しないなど拘束はしていない。玄関を勝手に出て行く利用者もあるが職員も生活行動を知っているので注視しているが自由である。外に出る人には一応電話番号をつけている。地域からの見守り通報もあり。	自由に外に出れることについては、職員の利用者観察が行き届いていることとは思うが、もしものことを考えて自由外出に関するリスク管理、ルール作りを検討されたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入居者の個別介護の検討等について、この視点も含めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修やその伝達研修等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	在宅ｹｱﾏﾈｰｼﾞｬｰと利用者･家族との同席で、書類により話したり、利用後でも尋ねられれば説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族交流会では意見を聞いている。 また、ボランティアさんや地域の方との活動の中からも、入居者家族からの意見や要望があったか等聞いている。	個別で訪問された家族や、年4回の家族交流会のときに意見や要望を聞くようにしている。月1回のお便りなどで状況を知らせたりするのでこれに関しても訪問時に伺うようにしている。家族同士の交流も始まっており要望は出やすい形になってきている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の時や個別面談も実施し、より良い運営ができるようにしている。	事前アンケートにより職員の意向を聞いたりした後、個人面接を行い更に要望を聞く体制が出来ている。職員も自分の意見や要望を直接上司に聞いてもらうことが出来て納得している様子が伺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	働く時間や出勤日、休みの希望は取り入れている。 職務権限規定に基づき、業務責任を果たしてもらったり入居者を担当制にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の希望を取り入れ、外部研修への参加の機会を確保している。内部研修では、その伝達や職種専門性を活用し、その職員が講師となり実施している。新人職員には、それようのﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑにて研修。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ連絡会や介護福祉士会などの活用で、同業者と交流している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居者には早期に状況確認や、本人との信頼関係を築くため、特に集中して全職員でいろんな場面で話しや要望を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居説明や家庭への訪問などを通して、家族から要望や困っている事等うかがっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時点で一番困っていること、入居にあたり要望する事などを伺い対応している。 他のサービス利用は考えていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理のことなどは教えてもらうことが多い。 また、入居者が時々肩もみをしてくれたり、一緒に午睡をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは一緒に入居者への支援をするチームの一員として個別会議を持ち、これからのことを相談するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きたい所を聞いたり話の中から外出活動に取り入れたり、買い物に合わせたり、友人などの面会や同伴外出など進めいている。	職員が買い物に付き添ったり、受診の後外食をしたり、仲良し同士で買い物に行くときの支援をしたりと細かい職員の対応が見られる。特に希望が無いが家族支援の得られる人はそれなりに外出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性、年齢、生活暦等から、より良い関係が作れるように、食事の席、家事分担、入浴などの場面で支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も自由に来て頂けるよう、話したり行事等には声掛けをしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の本人の言葉や行動を記録し、会議での検討を通し把握するようにしている。 また、家族からは入居後も在宅時や現在の状況を聞かせてもらう等で努めている	生活歴に基づいて対応している。日々の要望は記録して職員全員が目を通して確認している。個別記録生活日誌などに細かく記載して介護計画などにも役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、在宅時のｹｱﾏﾈｰｼﾞｬｰ、包括支援センター職員等から、情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様々な場面での観察をし、それを記録することで把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の本人の言葉や行動から本人の思いや現状把握に努め、家族との話や相談等を通し、職員会議で検討し介護計画を作成。介護実践後は、評価し再計画へつなげている。	3ヶ月に1度の評価記録があり、援助内容は全員で相談して作成している。援助内容については家族にも送付され意見を聞くようにしている。	評価の後、計画達成事項と、未達事項を色分けするなどして明示することで確認がしやすくなる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	場面状況を正確に記録するよう努め、職員が同じように情報把握が出来る様にし、それに基づき介護計画やその実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望にはなるべく対応できるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生との交流、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの力、各種ｻｰｸﾙの訪問を受ける、近所の方の支援等できる限りしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者個々の主治医を大切にし、継続して適切な医療が受けられる様にしている。	かかりつけ医の受診については個人個人で対応が違うが家族に付き添ってもらうときは施設で状況報告書を作成して持参してもらっている。受診後家族から口頭で報告があり、主治医から知らせがあるときもあり利用者の健康状況の把握は出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が、異常の早期発見のための各個人の症状などを伝え、職員全員で観察や報告、相談をし合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から退院まで、家族と共に病院との情報のやり取りをし、早期退院に向けて対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合い主治医と相談し、方針決定後は職員全員で共有し対応している。 体調状況により初めの方針だけでなく、その都度話し相談できるようにしている。	今までに看取りをした経験はある。重度化した場合の対応については、契約書に載っており、契約時に家族に説明している。	その人らしい最期を迎えるために、ホームでの看取り体制について再度検討されたい。緊急時の対応などについても又重度化したときの家族の意向などについて覚書ないしは確認書の交換をしておくことが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期の救急法の研修を実施。 看護職員による内部研修の実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定しての避難誘導訓練の実施。 地域の消防団、区の関係者に協力依頼。	職員の初期訓練として夕方7時から8月に実施した。11月には通所と合同で実施する予定である。連絡網があり、誘導時に利用者の首には名札をかけるようになっている。家族への連絡名簿も掲示あり。	近隣、消防などとの連携を密にして、避難経路、地震対策など綿密な計画を更に詰められたい。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の今までの歩みや暮らし方等から、名前の呼び方その他の声掛けのしかた、お願いのしかた、家事の中で何をどのようにしていただくか等、検討しながら対応している。	利用者それぞれの価値観を尊重し、出来るだけ好きなことをやってもらうようにしている。新入職員は出来るだけ利用者と接する時間を多くとり利用者のすべてを感じ取ってもらって対応するようにしている。呼称は今まで呼ばれていたように。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々が自分の考えや意見が出せるように、また、行動や活動の自己決定ができるような声掛けや問いかけをするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人ができる時間にできることをしていただき、やりたくなかったりできなかったときは、それで良しとしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みの服装（形や色など）や服をきちんと着ていること、整髪などに気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶の時間に食べたい物を聞いたり、今の季節の旬のものを考えたり、畑から野菜を採ってきたり等、食事への楽しみ感を膨らませながら、準備から片付けまで一緒に行っている。	好き嫌いの把握はしたがあまり好き嫌いはないようだ。畑で取れた季節のものを食材として積極的に取り入れている。畑の草取りは利用者も手伝っている。職員が各テーブルについて楽しく食事が出来るよう盛り上げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事カロリー、栄養バランスなどの確認を栄養士に依頼し指導を受けている。また、水分量は確認し記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の歯磨きへの支援や、夜間は義歯を洗浄剤液に浸しておくなどもしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄自立度に応じ、トイレへの誘導やポータブルトイレの使用、昼と夜とのﾊﾟｯﾄﾞ等の使い分け等をしている。	入居者のうち6人は自立して普通の下着を着用している。職員は気配りはしているが出来るだけ本人の自由にしている。失禁対応は利用者の気持ちに配慮しながら清拭している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の排便状態の把握に努め、水分量を確保するため、好きな水分を取り入れたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時々近くの温泉を利用したり、ﾎｰﾑでの入浴も本人の希望や体調にあわせ、入浴時間や一緒に入る他者の組み合わせや入浴方法など考え支援している。	最低週2回は入浴している。入浴拒否の人が1名いるが言葉がけで何とか入浴してもらっている。近くに温泉施設があるので、こちらへの入浴も定期的に行い利用者は喜んで入浴している。この入浴施設は散歩コースにもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠できるよう、日中は家事･畑仕事等のことをしていただいている。 休憩や午睡も自由にできるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬説明書を利用し、職員全員が分かるようにしている。 個々への配薬と内服が確実に出来るよう管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意とすることで、その方の力を発揮していただけるよう見極め、設定やお願いをしている。 行きたい所への外出や地域の行事への参加なども取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	数人で戸外に出られるように買い物や外食、美容院などへ行ったり、個別では買い物や医療機関の受診に合わせたり、誕生月に希望する外出をできる様にする支援をしている。	希望に添って随時外出の支援を行っている。施設の買い物ついでに同行してもらい好きなものを買うなど利用者の楽しみでもある。誕生日などを中心に利用者が楽しめるよう特別要望を聞くなど細かい支援の様子が伺える。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額はもっている方もいる。 持っていない方も、外出時には使えるように本人に渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつも自由にしている。 出来ない部分は職員が手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の景色を眺めやすいように、食堂の席や居間のｿﾌｧｰの位置に配慮している。 また、冬は居間に炬燵を出し寄り付ける場としている。ｶｰﾃﾝで光を調整し、ﾎｰﾑ内にはなるべく季節の花々を飾るように心がけている。	共有空間に炬燵や長いすを置くなど利用者がくつろげるよう配慮されている。季節の花や果物などが何気なく配備され、心安らぐ空間である。長いすからは田園風景が眺められ遠く温泉街も見ることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを置いたり、居間は座卓を置いたり、玄関先には椅子を置くなどしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や入居者と相談し、馴染みの物や大切な物（家具、仏壇、等）を自由に持ち込んでいただいている。	7．5畳の広い居室には家族と相談して利用者の好きなものを持ち込むことが出来る。仏壇を持ってきている人も4名ほどある。入り口には小学生の書いた似顔絵がそれぞれ飾られその人の居室らしさが出ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせ、できるだけ手すり等の活用や、移動用具の活用、滑り止めマットの活用などをしている。		